

**IBM SPSS Collaboration and Deployment
Services
Scoring Server**

バージョン 8 リリース 1

インストールおよび構成ガイド

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、41 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services バージョン 8 リリース 1 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM SPSS Collaboration and Deployment Services
Scoring Server
Version 8 Release 1
Installation and Configuration Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2000, 2017.

目次

第 1 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server	1
インストールの概要	2
第 2 章 前提条件	3
ホスト・システムの要件	3
アプリケーション・サーバー	3
WebSphere の展開シナリオ	4
第 3 章 異なるセルにあるスコアリング・サーバー用の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の構成	7
第 4 章 インストール・ファイル	9
第 5 章 Installation Manager 入門	11
リポジトリの設定	12
ウィザード・モードでのリポジトリの設定	13
コンソール・モードでのリポジトリの設定	13
パスポート・アドバンテージの設定	14
ウィザード・モードでのパスポート・アドバンテージの設定	14
コンソール・モードでのパスポート・アドバンテージの設定	15
第 6 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のインストール	17
ウィザード・モードでのインストール	17

コンソール・モードでのインストール	20
応答ファイルを使用したサイレント・インストール	23
第 7 章 スコアリング構成設定の指定	25
スコアリング・サーバーが scoring-configuration.xml を見つける方法	27
第 8 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開	29
WebSphere の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開	29
JBoss の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開	31
WebLogic の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開	32
第 9 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のアンインストール	37
ウィザード・モードを使用したアンインストール	37
コンソール・モードを使用したアンインストール	38
第 10 章 推奨されない機能	39
特記事項	41
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	42
商標	43
索引	45

第 1 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services スコアリング・サービスは、個別に展開可能なアプリケーションである IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server として使用できます。

スコアリング・サーバーは、以下のようないくつかの主要領域で展開の柔軟性を向上させます。

- スコアリングのパフォーマンスを他のサービスとは独立して評価することができます。
- コンピューティング・リソースを 1 つまたは任意の数の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services スコアリング設定専用にするように、スコアリング・サーバーを独立して設定することができます。
- スコアリング・サーバーのオペレーティング・システムとプロセッサ・アーキテクチャーは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository や他のスコアリング・サーバーと一致している必要はありません。
- スコアリング・サーバーのアプリケーション・サーバーは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository や他のスコアリング・サーバーで使用されるアプリケーション・サーバーと一致している必要はありません。

最高の柔軟性を実現するため、スコアリング・サーバーは、標準的な Web サービス呼び出しと JMS メッセージだけを使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository と通信します。共有ファイル・システムも、リポジトリ・データベースへの JDBC 接続も必要ありません。ネットワーク・インフラストラクチャーによって、リポジトリ・サーバーとスコアリング・サーバー間の HTTP および JMS トラフィックを行える必要があります。

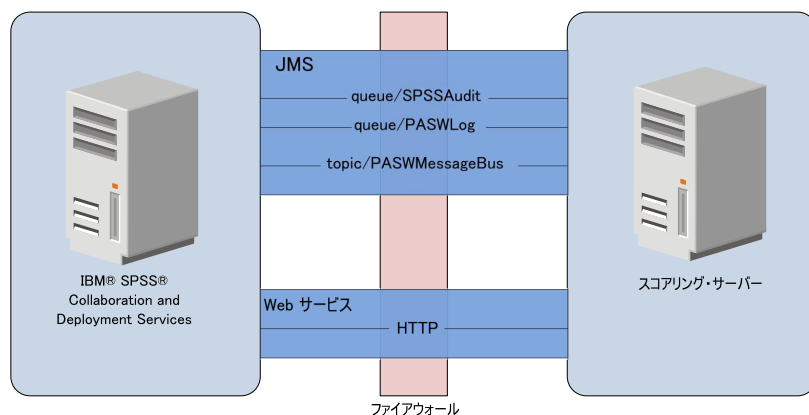


図 1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services とスコアリング・サーバー

重要:

- スコアリング・サーバーを起動する場合、スコアリング設定と関連するリポジトリ・リソースをロードできるように、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository が使用可能になっている必要があります。ただし、スコアリング・サーバーは一度始動すると、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository が使用不可になっても実行し続けます。

- スコアリング・サーバーは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバー環境の外部で実行されるため、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services セキュリティー役割は、スコアリング・サーバー上では適用されません。代わりに、標準的なアプリケーション・サーバーのセキュリティー・ポリシー・セットを使用することにより、JAX-WS アプリケーションとして機能するスコアリング・サーバーを保護することができます。詳細については、アプリケーション・サーバー Web サービスのセキュリティーに関する資料を参照してください。

インストールの概要

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開には、必要なファイルの取得、スコアリング・サーバーのインストール、および IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository と通信するようにサーバーを構成する作業が含まれます。

手順

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールするには、以下の手順を実行します。

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の前提条件がすべて満たされていることを確認します。
2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server と通信するように、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository を構成します。
3. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server インストール・ファイルを取得します。
4. Installation Manager リポジトリ設定または Passport Advantage® のアカウント設定を構成します。
5. Installation Manager を使用して、モデル・タイプに必要な IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server およびスコアリング・アダプターをインストールします。例えば、スコアリング・サーバーによって PMML モデルのスコアが生成される場合は、スコアリング・サーバーのほかに IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Adapter for PMML をインストールします。
6. スコアリングの構成設定を指定します。
7. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server を展開および構成します。

第 2 章 前提条件

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールする前に、システム要件を確認し、環境にリソースをセットアップしてください。

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールおよび実行するには、ユーザーに十分なレベルの権限が必要です。
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository がインストールされており、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server インストール済み環境で使用できる必要があります。
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository インスタンスに、インストール済みのモデル・タイプに対応するスコアリング・アダプターが必要です。手順については、スコアリング・アダプターのインストール資料を参照してください。例えば、スコアリング・サーバーによって PMML モデルのスコアが生成される場合は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Adapter for PMML をインストールします。
- IBM Installation Manager がシステムにインストールされている必要があります。

Installation Manager がまだシステム上にない場合は、インストールを開始する際に自動的にインストールされます。所有している Installation Manager のバージョンが古い場合は、インストールの一環としてそれを更新する必要があります。

Installation Manager が自動的にインストールされず、システム上にない場合は、IBM Corp. サポート・サイト (<http://www.ibm.com/support>) から Installation Manager をインストールします。ダウンロードの場所とユーザー情報については、Installation Manager の資料を参照してください。

ホスト・システムの要件

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールする前に、ハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

現在のシステム要件情報については、IBM 技術サポート・サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/prodguid/v1r0/clarity/softwareReqsForProduct.html>)でソフトウェア製品互換性レポートを参照してください。

WebSphere にインストールする場合は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services で使用する WebSphere プロファイルを、Java 7 SDK で実行するように構成する必要があります。詳しくは、「リポジトリのインストールと構成ガイド」を参照してください。

アプリケーション・サーバー

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server には、アプリケーション・サーバーが必要です。スコアリング・サーバーに付属のデフォルト・アプリケーション・サーバーを使用することも、独自のアプリケーション・サーバーを準備することもできます。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository アプリケーション・サーバーと IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server アプリケーション・サーバーの組み合わせによって、サーバー・トポロジが定義されます。次のアプリケーション・サーバー・トポロジがサポートされています。

表 1. サポートされているサーバー・トポロジ

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository アプリケーション・サーバー	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server アプリケーション・サーバー
WebSphere	スコアリング・サーバーに付属のデフォルト WebSphere Application Server Liberty Profile
WebSphere	WebSphere
JBoss	JBoss
WebLogic	WebLogic
WebSphere	JBoss
WebLogic	JBoss

注:

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository と IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の両方を WebSphere に展開する場合、サーバー・プロファイルに同一セルのトポロジまたは異なるセルのトポロジのいずれかを使用できます。
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository と IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の両方を JBoss に展開する場合は、それぞれにスタンドアロン・サーバーを使用します。
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository と IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の両方を WebLogic に展開する場合は、同じドメインを使用します。

WebSphere の展開シナリオ

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository およびスコアリング・サーバーが WebSphere で実行している場合、JMS 構成の手順を決定する 2 つの主な展開シナリオがあります。

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバー・プロファイルが同じ WebSphere セルで実行している場合
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバー・プロファイルが異なる WebSphere セルで実行している場合

同じセル内のサーバー

「同一セル」トポロジは、同じ WebSphere セル内で稼働する IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバーによって定義されます。図で示されている例では、リポジトリは *Cell1-Node1-Server1* にあります。スコアリング・サーバーは同じノード (*Cell1-Node1-Server2*)、異なるノード (*Cell1-Node2-Server3*)、またはそれらの両方に展開できます。使用できるノードとサーバーの数が、スコアリング・サーバーによって制限されることはありません。

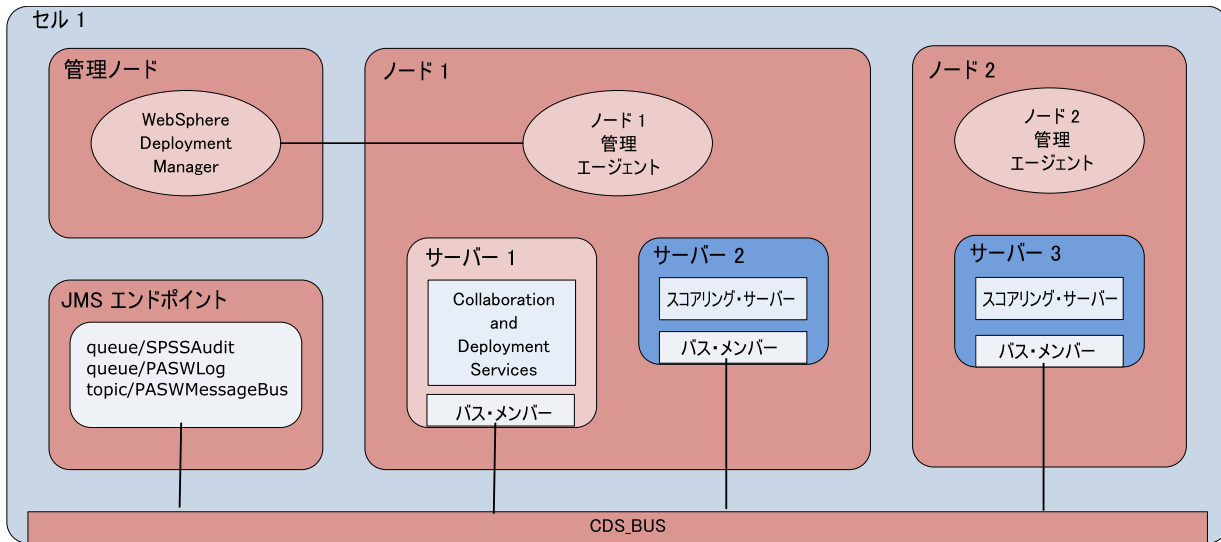


図 2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバー・プロファイルが同じ WebSphere セルで実行している場合

異なるセルのサーバー

「異なるセル」トポロジーは、異なる WebSphere セルで稼働する IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバー・アプリケーションによって定義されます。以下の図に示す例では、リポジトリは Cell1-Node1-Server1 内に存在しています。スコアリング・サーバーは異なるセル (Cell2-Node1-Server1) に展開されます。

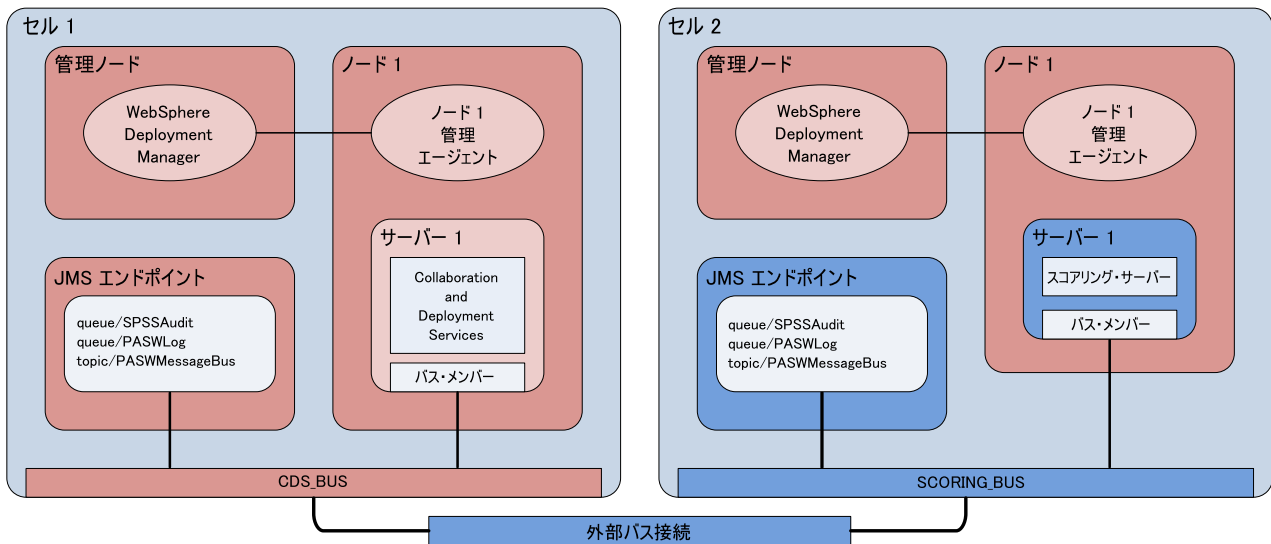


図 3. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository とスコアリング・サーバー・プロファイルが異なる WebSphere セルで実行している場合

展開時に、2 つのセルはサービス統合バス (SCORING_BUS など) を使用して接続されるため、一方のセルから生成された JMS トラフィックはもう一方のセルに表示されます。このトポロジーの別の例には、非管理対象 WebSphere プロファイルでスコアリング・サーバーを実行する場合などがあります。使用可能なセル、ノード、サーバーの数が、スコアリング・サーバーによって制限されることはありません。ただし、スコアリング・サーバーを実行している各セルに、IBM SPSS Collaboration and Deployment

Services Repository セルの *CDS_BUS* への固有のサービス統合バス接続が必要です。多数のセルを使用すると、管理が難しくなる可能性があります。

第 3 章 異なるセルにあるスコアリング・サーバー用の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の構成

WebSphere の異なるセルのトポロジーを使用する場合、外部バス接続を定義して、異なるセルにあるサーバーがお互いに通信できるようにする必要があります。

このタスクについて

同じセルのサーバー・トポロジーでは、すべてのサーバーが単一のセルにあり、共通バスを共有しています。しかし、異なるセルのトポロジーでは、各セルがバスを持っています。外部バス接続をセル・バス間に定義して、あるセルにあるサーバーが別のセルにあるサーバーと通信できるようにする必要があります。WebSphere 管理コンソールを使用して、これらの接続を定義します。WebSphere でのバス構成について詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。

手順

1. スコアリング・サーバー・セルで、固有の名前 (`SCORING_BUS` など) を使用して新しいサービス統合バスを作成します。バスのセキュリティを無効にする必要があります。
2. スコアリング・サーバー・セルで、スコアリング・サーバーを新しいバスに追加します。
3. スコアリング・サーバー・セルで、スコアリング・サーバーのバスから IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のバスへの外部バス接続を作成します。
 - バス接続タイプは直接接続である必要があります。
 - 外部バス・タイプはサービス統合バスである必要があります。
 - 外部サービス統合バスの名前は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository バスの名前 (通常は `CDS_BUS`) である必要があります。
 - ゲートウェイ・メッセージング・エンジンでノード、サーバー、およびバスが識別される必要があります。例えば、`CDS-Node01.server1-CDS_BUS` や `DG1-DEV-CLST-2aNode02.cds_server-CDS_BUS` などの値を使用します。
 - バスのリンク名は `CDS_SCORING_JMS_LINK` である必要があります。
 - ターゲットのインバウンド・トランスポート・チェーンは `InboundBasicMessaging` である必要があります。
 - ブートストラップ・サービス統合バス・プロバイダーのエンドポイントは、コンマ区切りのリストのエンドポイント・トリプレット、つまり `hostName:portNumber:chainName` の形式である必要があります。例えば、`cds.server.example.com:7278:BootstrapBasicMessaging` のような値になります。
 - 外部バスのリンク・ルーティング・プロパティによって、ローカル・バスのトピック・スペースと外部バスのトピック・スペースを含めて、トピック・スペース・マッピングを追加する必要があります。
 - トピック・スペース・マップには、`Default.Topic.Space` のローカル側のトピック・スペースとリモート側のトピック・スペースを含める必要があります。
4. 前のステップを繰り返して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のバスからスコアリング・サーバーのバスへの外部バス接続を作成します。
5. スコアリング・サーバーのプロセスを停止します。

タスクの結果

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository を含むセルのバスと、スコアリング・サーバーを含むセルのバスが、外部バス接続を介して通信できるようになります。

次のタスク

バス接続を定義した後、IBM Installation Manager を構成し、スコアリング・サーバーをインストールします。

第 4 章 インストール・ファイル

インストールを行う前に、インストール・ファイルを取得する必要があります。

インストール・ファイルを取得するには、以下のいずれかを行います。

- パスポート・アドバンテージ・サイトからファイルをダウンロードし、ローカル・インストールを行う: パスポート・アドバンテージの ID とパスワードを持つライセンス済みのお客様は、必要な製品リポジトリをパスポート・アドバンテージ・サイトからダウンロードすることができます。
- 稼働中のリポジトリにアクセスし、Web ベースのインストールを行う: パスポート・アドバンテージの ID とパスワードを持っている場合は、Installation Manager を使用して、IBM がホストしているリポジトリから製品を直接インストールすることができます。

第 5 章 Installation Manager 入門

IBM Installation Manager を使用すると、ウィザード・モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードで、製品のインストール、更新、またはアンインストールを実行できます。ただし、これらのタスクを行う前に、IBM Installation Manager リポジトリまたはパスポート・アドバンテージの設定を構成する必要があります。

Installation Manager について詳しくは、IBM Installation Manager の資料を参照してください。

ウィザード・モード

ウィザード・モードでは、Installation Manager をグラフィカル・ユーザー・インターフェースから実行します。

通常は、ご使用の Installation Manager のバージョンと共にインストールされたデフォルト・ショートカットを使用して Installation Manager を開始します。

Installation Manager のインストール場所から IBMIM アプリケーション・ファイルを実行すると、ウィザード・モードで手動で開始することができます。

オペレーティング・システムに対応する IBMIM のデフォルトの場所は、インストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。

表 2. IBMIM のデフォルトのインストール場所

オペレーティング・システム	管理者	非管理者	グループ
Windows XP Professional	C:\Program Files\IBM\Installation Manager	C:\Documents and Settings\user\IBM\Installation Manager\eclipse	利用不可
Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、Windows 8、および Windows 2012	C:\Program Files [(x86)]\IBM\Installation Manager\eclipse	C:\Users\user\IBM\Installation Manager\eclipse	
Linux および UNIX	/opt/IBM/InstallationManager/eclipse	/user_home_directory/IBM/InstallationManager/eclipse	/user_home_directory/IBM/InstallationManager_Group/eclipse

コンソール・モード

グラフィック表示デバイスを使用できない場合や、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用せずに Installation Manager を実行する場合は、コンソール・モードを使用します。Installation Manager は、コンソール・モードと呼ばれる ASCII テキスト・ベース・モードでのインストールをサポートしています。コンソール・モードは、Installation Manager に対する対話式のテキスト・ベースのユーザー・インターフェースです。例えば、グラフィカル・ユーザー・インターフェースがない場合のサーバー・サイドでの展開や、リモート・ホストからのインストールの実行に、コンソール・モードを使用します。

コンソール・モードを開始するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド・ラインを開きます。
2. `tools` サブディレクトリーに移動します。
3. オペレーティング・システムに応じて、次のコマンドを実行します。

- Windows: `imcl.exe -c`
- Linux、UNIX、および z/OS®: `./imcl -c`

`tools` のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムとインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳細については、**Installation Manager** 資料を参照してください。

表 3. `tools` サブディレクトリーのデフォルトのインストール場所

オペレーティング・システム	管理者	非管理者	グループ
Windows XP Professional	<code>C:\Program Files\IBM\Installation Manager\eclipse\tools</code>	<code>C:\Documents and Settings\user\IBM\Installation Manager\eclipse\tools</code>	
Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、Windows 8、および Windows 2012	<code>C:\Program Files [(x86)]\IBM\Installation Manager\eclipse\tools</code>	<code>C:\Users\user\IBM\Installation Manager\eclipse\tools</code>	
Linux および UNIX	<code>/opt/IBM/InstallationManager/eclipse/tools</code>	<code>/user_home_directory/IBM/InstallationManager/eclipse/tools</code>	<code>/user_home_directory/IBM/InstallationManager_Group/eclipse/tools</code>

サイレント・モード

複数のシステムまたは全社的にソフトウェアを展開するには、サイレント・インストールを使用します。サイレント・インストールは、応答ファイルによって定義され、コマンド・ラインまたはバッチ・ファイルから開始されます。応答ファイルは、製品配布に付属しています。詳しくは、23 ページの『応答ファイルを使用したサイレント・インストール』を参照してください。

リポジトリーの設定

IBM Installation Manager リポジトリーは、パッケージのインストール、修正、ロールバック、または更新用のデータを保管する場所です。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う場合は、事前に管理者または IBM にインストール・リポジトリーの場所を確認しておいてください。

注: インストール・リポジトリーに正常にアクセスするためには、リポジトリーの場所のパスにアンパーサンド (&) を含めてはなりません。

以下のトピックでは、ウィザード・モードおよびコンソール・モードでリポジトリーの設定を行う手順について説明します。

ウィザード・モードでのリポジトリの設定

ウィザード・モードを使用して、リポジトリを追加、編集、または削除したり、リポジトリ・テーブル内のリポジトリの順序を変更したりすることができます。

このタスクについて

リポジトリの資格情報をクリアしたり、リポジトリへの接続をテストしたりすることができます。diskTag.inf ファイルと repository.config ファイルの両方が IBM 製品インストール・ファイル内にある場合があります。リポジトリの場所を選択する場合は、diskTag.inf ファイルを使用してください。

手順

リポジトリの場所を追加、編集、または削除するには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「リポジトリ」をクリックします。「リポジトリ」ページが開き、使用可能なリポジトリ、リポジトリの場所、およびリポジトリの接続状況が表示されます。
3. 「リポジトリの追加」をクリックします。
4. リポジトリの場所を入力するか、「参照」をクリックします。参照する場合は、リポジトリの場所に移動し、ご使用の環境に応じて diskTag.inf ファイル、repository.config ファイル、.zip ファイル、または .jar ファイルを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

リポジトリの場所として HTTPS または制限付き FTP を指定した場合は、ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。新しいリポジトリの場所がリストに追加されます。リポジトリに接続していない場合は、「接続」列に赤のボックスが表示されます。

6. オプション: 「インストール中および更新中にサービス・リポジトリの検索」を選択します。Installation Manager は、インストールされるパッケージに対する更新がないか、IBM.com でサービス・リポジトリを検索します。
7. 「OK」をクリックして、「設定」ページを閉じます。

コンソール・モードでのリポジトリの設定

コンソール・モードを使用して、リポジトリの追加、削除、オープン、移動、またはクローズを行うことができます。

このタスクについて

選択されているオプションは、大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。Enter キーを押してデフォルトの項目を選択することも、別のコマンドを選択することもできます。例えば [N] は、デフォルトの選択が「N」（「次へ」コマンド）であることを示します。

手順

リポジトリを追加するには、以下の手順を実行します。

1. imcl -c を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. 「P」（「P: 設定」）を入力します。

3. 「1」（「1: リポジトリ」）を入力します。
4. 「D」（「D: リポジトリの追加」）を入力します。
5. リポジトリの場所 (C:\installation_files\repository.config など) を入力します。 資格情報が必要なリポジトリを追加した場合は、必要な資格情報を入力するように求めるプロンプトが出されません。

リポジトリの場所を入力する際は、大/小文字を正しく使用してください。大/小文字を正しく使用しないと、インストール対象として選択可能なパッケージのリストにそのパッケージが表示されません。

- a. 「P」（「P: 資格情報を指定して接続する」）を入力します。
 - b. *user_name* を入力して **Enter** キーを押します。
 - c. *password* を入力して **Enter** キーを押します。
 - d. 「1」を入力してパスワードを保存します。
 - e. 「0」（「O: OK」）を入力します。
6. 「A」（「A: 変更を適用して「設定」メニューに戻る」）を入力します。
 7. 「R」（「R: メインメニューに戻る」）を入力します。

パスポート・アドバンテージの設定

IBM Installation Manager は、パスポート・アドバンテージからインストール・パッケージにアクセスすることができます。パスポート・アドバンテージを利用すると、中央の場所からさまざまな IBM ソフトウェア製品をオンラインで取得することができます。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う前に、有効なパスポート・アドバンテージ資格情報を取得してください。

以下のトピックでは、ウィザード・モードおよびコンソール・モードでパスポート・アドバンテージの設定を行う手順について説明します。

ウィザード・モードでのパスポート・アドバンテージの設定

ウィザード・モードでパスポート・アドバンテージに接続するように、Installation Manager パスポート・アドバンテージの設定を行うことができます。

このタスクについて

重要: Installation Manager のインスタンスを他のユーザーと共有する場合は、Installation Managerの資料で管理者、非管理者、またはグループとしてインストールする方法について参照してください。

手順

パスポート・アドバンテージを設定するには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「パスポート・アドバンテージ」をクリックします。
3. 「パスポート・アドバンテージへ接続」チェック・ボックスを選択して、パスポート・アドバンテージのリポジトリへ接続します。「パスワードが必要です」ウィンドウが開きます。
4. パスポート・アドバンテージのユーザー名とパスワードを入力します。
5. オプション: 「パスワードの保存」を選択し、ユーザー名およびパスワード資格情報を保存します。

ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、パスポート・アドバンテージにアクセスするたびにこれらの資格情報を求めるプロンプトが出されます。

6. 「OK」をクリックして、「パスワードが必要です」ウィンドウを閉じます。
7. 「OK」をクリックして、「設定」ウィンドウを閉じます。

次のタスク

保存されたユーザー名およびパスワード資格情報を削除するには、以下の手順を実行します。

1. 「ファイル」 > 「設定」 > 「パスポート・アドバンテージ」をクリックします。
2. 「資格情報のクリア」をクリックします。
3. 「資格情報のクリアの確認」ウィンドウで、「OK」をクリックします。

コンソール・モードでのパスポート・アドバンテージの設定

コンソール・モードでパスポート・アドバンテージに接続するように、Installation Manager パスポート・アドバンテージの設定を行うことができます。

手順

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. 「P」（「P: 設定」）を入力します。
3. 「6」（「6: パスポート・アドバンテージ」）を入力します。
4. 「1」（「1: パスポート・アドバンテージへ接続」）を入力します。選択されているオプションは、大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。
5. 「P」（「P: 資格情報を指定して接続する」）を入力します。
6. パスポート・アドバンテージ・アカウント用のユーザー名を入力します。
7. パスワードを入力します。

ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、パスポート・アドバンテージにアクセスするたびにこれらの資格情報を求めるプロンプトが出されます。

- a. オプション: パスワードを入力した場合は、「1」（「1: パスワードを保存する(有効な場合)」）を入力します。
8. 「O」（「O: OK」）を入力して資格情報を保存します。

第 6 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のインストール

ウィザード・モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードでインストールできます。

ウィザード・モードでのインストール

IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールできます。

始める前に

インストールを行うには、パッケージを格納しているリポジトリに、IBM Installation Manager からアクセスできなければなりません。

- IBM パスポート・アドバンテージのアカウントがある場合は、パスポート・アドバンテージ・サイトからパッケージをインストールすることができます。パスポート・アドバンテージのリポジトリへの接続について詳しくは、14 ページの『ウィザード・モードでのパスポート・アドバンテージの設定』を参照してください。
- パスポート・アドバンテージ・サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、13 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリの設定』を参照してください。

手順

1. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. Installation Manager で、「インストール」をクリックします。Installation Manager は、使用可能なパッケージの定義済みリポジトリを検索します。使用可能なパッケージが見つからない場合は、リポジトリを正しく指定したことを確認してください。13 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリの設定』を参照してください。
3. Installation Manager の新しいバージョンが検出されると、インストールの確認を求めるプロンプトが表示されることがあります。「はい」をクリックして続行します。Installation Manager は、新規バージョンを自動的にインストールして、再始動、および再開します。
4. Installation Manager の「インストール」ページに、Installation Manager が検索したリポジトリで検出されたパッケージがすべてリストされます。最新バージョンのパッケージのみが表示されません。Installation Manager で検出されたパッケージのバージョンをすべて表示するには、「すべてのバージョンを表示」を選択します。パッケージ・バージョンをクリックすると、「詳細」ペインにパッケージの説明が表示されます。パッケージに関する詳細がある場合は、説明テキストの終わりに「詳細情報」リンクがあります。

Installation Manager をグループ・モードで実行している場合は、グループ・モードでのインストールに対応したパッケージのみをインストールすることができます。グループ・モードでのインストールに対応していないパッケージの場合にはエラーが表示され、そのパッケージのインストールをグループ・モードで続行することはできません。

- スコアリングに使用するモデル・タイプに対応するすべてのスコアリング・アダプターと IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server を選択します。「次へ」をクリックします。

重要: スコアを生成できるようにするには、スコアリング・サーバーとともに、少なくとも 1 つのスコアリング・アダプターがインストールされている必要があります。インストール済み環境にスコアリング・アダプターが含まれていない場合、スコアリング・サーバーは機能しません。

- 「ライセンス」ページで、選択したパッケージの使用条件を読みます。使用条件に同意した後、「次へ」をクリックして続行します。
- 「場所」ページの「共有リソース・ディレクトリー」フィールドに、共有リソース・ディレクトリーのパスを入力します。共有リソース・ディレクトリーには、複数のパッケージ・グループが共有できるリソースが含まれています。「次へ」をクリックします。
- 「場所」ページで、パッケージのインストール先にするパッケージ・グループを選択するか、パッケージ・グループを作成します。パッケージ・グループは、パッケージが同一グループ内の他のパッケージと共有するリソースが含まれるディレクトリーです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。インストールするパッケージを複数選択する場合は、パッケージの資料で、それらのパッケージが同じパッケージ・グループでインストールできることを確認してください。同じパッケージ・グループでインストールできないパッケージについては、1 つのパッケージ・グループで 1 つのパッケージをインストールします。インストールの完了後、別のパッケージ・グループで 2 番目のパッケージをインストールします。

オプション	説明
既存のパッケージ・グループの使用	パッケージのインストール先にするパッケージ・グループを選択します。インストール対象のパッケージが選択したグループと非互換の場合、アラートにより競合がレポートされます。グループが非互換の場合、異なるグループを選択するか、新しいグループを作成してください。
新規パッケージ・グループの作成	「参照」をクリックして、パッケージのインストール・ディレクトリーを指定します。64 ビットのオペレーティング・システムにインストールする場合、インストールのアーキテクチャーとして 32 ビットまたは 64 ビットを選択します。

「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

- 「機能」ページで、インストールするパッケージ機能を選択します。「すべて展開 (**Expand All**)」をクリックして、すべての機能オプションを表示します。スコアリング・サーバーの場合、以下のいずれかの展開オプションを選択します。

オプション	説明
簡単展開 (Easy deploy)	このオプションを選択すると、デフォルトのアプリケーション・サーバーがインストールされ、スコアリング・サーバーがそこに展開されます。スコアリング・サーバーに関連付けられた IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository によって WebSphere Application Server を実行する必要があります。

オプション	説明
手動展開 (Manual deploy)	このオプションを選択すると、以降の手動展開のために必要なすべてのスコアリング・サーバー作成物がアプリケーション・サーバーにインストールされます。サポートされるサーバー・トポロジについて詳しくは、3 ページの『アプリケーション・サーバー』を参照してください。

機能の選択が終了したら、「次へ」をクリックします。

- 「構成」ページで、展開の構成設定を指定します。使用可能な設定は展開タイプによって異なります。

オプション	説明
簡単展開 (Easy deploy)	スコアリング・サーバーに関連付けるリポジトリ・サーバーの URL および接続資格情報を入力します。さらに、スコアリング・サーバーのアプリケーション・サーバーの WebSphere SIP エンドポイント・ポートを指定します。
手動展開 (Manual deploy)	スコアリング・サーバーに使用するアプリケーション・サーバー・タイプを選択するか、「サポートされるすべての EAR を作成します」を選択して、サポートされるすべてのアプリケーション・サーバー・タイプに対して展開 EAR ファイルを作成します。

- パッケージをインストールする前に、「要約」ページで選択項目を確認します。

Windows では、Installation Manager によって実行中のプロセスが検査されます。プロセスがインストールを妨げている場合、そのプロセスのリストが「ブロッキング・プロセス」セクションに表示されます。インストールを続行するには、これらのプロセスを停止する必要があります。「ブロッキング・プロセスをすべて停止」をクリックします。停止しなければならないプロセスが存在しない場合、このリストは表示されません。実行中のプロセスは、Installation Manager がアクセスまたは変更しなければならないファイルをロックしています。

- 「インストール」をクリックします。インストール・プロセスが完了すると、確認メッセージを受け取ります。

タスクの結果

指定されたディレクトリーに IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server がインストールされます。

次のタスク

- 「簡単展開 (Easy deploy)」オプションを使用してスコアリング・サーバーをインストールした場合、スコアリング・サーバーに展開されるスコアリング設定の設定を指定します。
- 「手動展開 (Manual deploy)」オプションを使用してスコアリング・サーバーをインストールした場合、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server EAR ファイルをアプリケーション・サーバーに展開します。

コンソール・モードでのインストール

IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールすることができます。

始める前に

インストールを行うには、パッケージを格納しているリポジトリに、Installation Manager からアクセスできなければなりません。

- IBM パスポート・アドバンテージのアカウントがある場合は、パスポート・アドバンテージ・サイトからパッケージをインストールすることができます。パスポート・アドバンテージのリポジトリへの接続について詳しくは、15 ページの『コンソール・モードでのパスポート・アドバンテージの設定』を参照してください。
- パスポート・アドバンテージ・サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、13 ページの『コンソール・モードでのリポジトリの設定』を参照してください。

このタスクについて

選択されているオプションは、大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。Enter キーを押してデフォルトの項目を選択することも、別のコマンドを選択することもできます。例えば [N] は、デフォルトの選択が「N」（「次へ」コマンド）であることを示します。

一部のオプションには、ステータス接頭部 [Error] または [Incomplete] が含まれる場合があります。このステータスは、そのオプションに含まれるパラメーターに対して、現在 IBM Installation Manager が有効な値を持っていないことを意味します。このステータスを持つオプションを選択した場合は、パラメーターの値を指定する必要があります。

手順

コンソール・モードでインストールするには、以下の手順を実行します。

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。

`imcl` のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムとインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。

2. 「1」（「1: インストール - ソフトウェア・パッケージをインストールします」）を入力します。インストールできるパッケージがリストされます。

資格情報が必要なリポジトリがある場合は、資格情報を保存しておかないと、これらの資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。

3. 「1」（「1: [] package_name」）を入力します。パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。この例では、リスト内の最初のパッケージを選択しています。選択したパッケージで Installation Manager の新しいバージョンが必要な場合は、その新しいバージョンをインストールすることを促すプロンプトが表示されます。

重要: スコアを生成できるようにするには、スコアリング・サーバーとともに、少なくとも 1 つのスコアリング・アダプターがインストールされている必要があります。インストール済み環境にスコアリング・アダプターが含まれていない場合、スコアリング・サーバーは機能しません。

4. 「選択」画面で、インストールするパッケージの横にある番号を入力します。
 - **1:** インストールするバージョン *package_version* を選択します。このオプションは、インストール対象として選択されていないパッケージを選択した場合に表示されます。

インストール対象として選択されているパッケージを選択した場合は、オプション「1」（「1: バージョン *package_version* をインストールしないでください」）が表示されます。
 - **2:** パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します。
5. オプション: 「0」（「0: 他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」）を入力します。**Installation Manager** は使用可能なリポジトリを調べて、選択したパッケージの他のバージョン、フィックスまたは拡張機能を検索します。
 - インストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリを **Installation Manager** に検索させるには、「インストールと更新を行っている間にサービス・リポジトリをサーチします」という設定を選択する必要があります。デフォルトではこの設定が選択されます。この設定にアクセスするには、「リポジトリ」設定ページに移動してください。
 - 通常は、インターネット・アクセスが必要です。
 - 「他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」オプションでは、見つかった他のバージョン、フィックスまたは拡張機能の数が示されますが、見つかった項目のリストは表示されません。使用可能なバージョンを表示するには、パッケージの横にある番号を入力し、さらに「2」（「2: パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します」）を入力します。
6. 引き続き、パッケージの選択とインストールするバージョンの指定を行います。終了する場合は、「N」を入力します。
7. 「ライセンス」画面のオプションは次のとおりです。
 - **1:** *product_name* - ご使用条件。使用条件を確認するには、製品名の横にある番号を入力します。この例では、リスト内の最初の使用条件を選択しています。
 - **A:** 使用条件の条項に同意します。
 - **D:** 使用条件の条項に同意しません。使用条件に同意しない場合、インストールが停止します。インストールを続行するには、使用条件に同意する必要があります。
 - a. 「A」を入力して、使用条件に同意します。
 - b. 「N」（「N: 次へ」）を入力します。
8. 共有リソース・ディレクトリーに別の値を入力するには、「M」（「M: 共有リソース・ディレクトリー」）を入力します。共有リソース・ディレクトリーのデフォルト値を受け入れるか、別の値を入力してから続行するには、「N」（「N: 次へ」）を入力します。

重要: 共有リソース・ディレクトリーは、パッケージの初回インストール時にのみ指定できます。今後のパッケージの共有リソース用に十分なスペースを確保できるよう、十分な使用可能スペースがあるドライブを選択してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、共有リソース・ディレクトリーの場所を変更することはできません。
9. オプション: パッケージ・グループの場所に別の値を入力するには、「M」（「M: 場所の変更」）を入力します。デフォルト値を受け入れるか、別の値を入力してから続行するには、「N」（「N: 次へ」）を入力します。

パッケージ・グループは、パッケージが同一グループ内の他のパッケージと共有するリソースが含まれるディレクトリーです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。インストールするパッケージを複数選択する場合は、パッケージの資料で、それらのパッケージが同じパッケージ・グループでインストールできることを確認してください。同じパッケ

ージ・グループでインストールできないパッケージについては、1つのパッケージ・グループで1つのパッケージをインストールします。インストールの完了後、別のパッケージ・グループで2番目のパッケージをインストールします。

10. 「機能」画面で、スコアリング・サーバーの展開オプションを指定します。
- 「簡単展開 (Easy deploy)」オプションを選択するには、「1」を入力します。このオプションを選択すると、デフォルトのアプリケーション・サーバーがインストールされ、スコアリング・サーバーがそこに展開されます。スコアリング・サーバーに関連付けられた IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository によって WebSphere Application Server を実行する必要があります。
 - 「手動展開 (Manual deploy)」オプションを選択するには、「2」を入力します。このオプションを選択すると、以降の手動展開のために必要なすべてのスコアリング・サーバー作成物がアプリケーション・サーバーにインストールされます。サポートされるサーバー・トポロジについて詳しくは、3 ページの『アプリケーション・サーバー』
- 「N」を入力します。
11. 「1」を入力して、展開の構成設定を指定します。使用可能な設定は展開タイプによって異なります。

オプション	説明
簡単展開 (Easy deploy)	<ul style="list-style-type: none"> • スコアリング・サーバーと関連付けるリポジトリ・サーバーの URL を指定するには、「1」を入力します。 • リポジトリ・サーバーに接続するためのユーザー名を指定するには、「2」を入力します。 • リポジトリ・サーバーに接続するためのパスワードを指定するには、「3」を入力します。 • 変更をモニターするために使用する WebSphere SIB エンドポイント・ポートを指定するには、「4」を入力します。
手動展開 (Manual deploy)	<ul style="list-style-type: none"> • サポートされるすべてのアプリケーション・サーバー・タイプに対して展開 EAR ファイルを作成するには、「1」を入力します。 • スコアリング・サーバーが IBM WebSphere アプリケーション・サーバー内で実行するように指示するには、「2」を入力します。 • スコアリング・サーバーが Oracle WebLogic 内で実行するように指示するには、「3」を入力します。 • スコアリング・サーバーが RedHat JBoss 内で実行するように指示するには、「4」を入力します。

構成設定を完了したら、「N」を入力します。

12. パッケージをインストールする前に、「要約」画面で選択内容を確認します。

オプション: 応答ファイルを生成するには、「G」(「G: インストール応答ファイルの生成」)を入力します。応答ファイルの名前を入力します。ファイル拡張子には .xml を使用します。応答ファイルは XML ファイルです。応答ファイル名の入力時にディレクトリーの場所を含めると、そのファイルを別の場所に保存することができます。

13. 「I」(「I: インストール」)を入力します。

- 22 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server: インストールおよび構成ガイド

14. インストールが完了したら、「F」（「F: 終了」）を入力します。

タスクの結果

指定されたディレクトリーの場所に IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server がインストールされます。

次のタスク

- 「簡単展開 (Easy deploy)」オプションを使用してスコアリング・サーバーをインストールした場合、スコアリング・サーバーに展開されるスコアリング設定の設定を指定します。
- 「手動展開 (Manual deploy)」オプションを使用してスコアリング・サーバーをインストールした場合、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server EAR ファイルをアプリケーション・サーバーに展開します。

応答ファイルを使用したサイレント・インストール

応答ファイルを使用して、サイレント・モードでインストールできます。

始める前に

インストール・パッケージに含まれている `SilentInstallOptions` 応答ファイルを見つけます。

手順

サイレント・モードでパッケージをインストールするには、以下のようにします。

imcl コマンドを実行します。

- Windows: `imcl.exe input response_file -log log_file`
- Linux および UNIX: `./imcl input response_file -log log_file`

imcl のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムとインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。

タスクの結果

インストールが完了すると、ステータス 0 が戻されます。インストールが完了できなかった場合は、ゼロ以外の数字が戻されます。

ログ・ファイルが使用可能です。詳細については、Installation Manager 資料を参照してください。

例

表 4. オペレーティング・システム別のインストール・コマンド

オペレーティング・システム	コマンド
Windows	<code>imcl.exe input c:%response_files%install.xml -log c:%mylog%install_log.xml -acceptLicense</code>
Linux および UNIX	<code>./imcl input /response_files/install.xml -log /mylog/install_log.xml -acceptLicense</code>

スペースを含むファイル・パスは、二重引用符で囲みます。

第 7 章 スコアリング構成設定の指定

設定ファイルで、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server に展開するスコアリング設定を指定します。

始める前に

IBM Installation Manager を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server および必要なスコアリング・アダプターをインストールします。

このタスクについて

scoring-configuration.xml ファイルに構成設定を定義します。このファイルには、以下の 2 つのセクションが含まれています。

serviceProperties

このセクションは、スコアリング・サーバーの実行時の動作を制御するプロパティの名前と値のペアを定義します。スコアリング・サーバーは `cds.server.url.prefix` プロパティを使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository に対する Web サービス呼び出しを起動します。このプロパティの値は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーの URL 接頭部と一致する必要があります。他のプロパティもこのセクションで定義できますが、通常は必要ありません。

configurationSelectors

このセクションは、スコアリング・サーバーに展開されるスコアリング設定を決定します。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバー上の特定のスコアリング設定をスコアリング・サーバーに展開する必要があるかどうかを判断するために、セレクターのリストが処理されます。設定名と一致する最初のセレクターによって、スコアリング・サーバーにスコアリング設定がどのように展開されるかが制御されます。セレクター定義には、スコアリング・サーバーでのスコアリング設定の動作をカスタマイズするための追加オプションがあります。例えば、`cacheSize` オプションを設定すると、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーからロードされた設定がオーバーライドされるため、スコアリング・サーバーのリソースに合わせてキャッシュ・サイズを調整できるようになります。デフォルトで、このファイルは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーと同じ設定を使用して、すべてのスコアリング設定を展開するように設計されています。

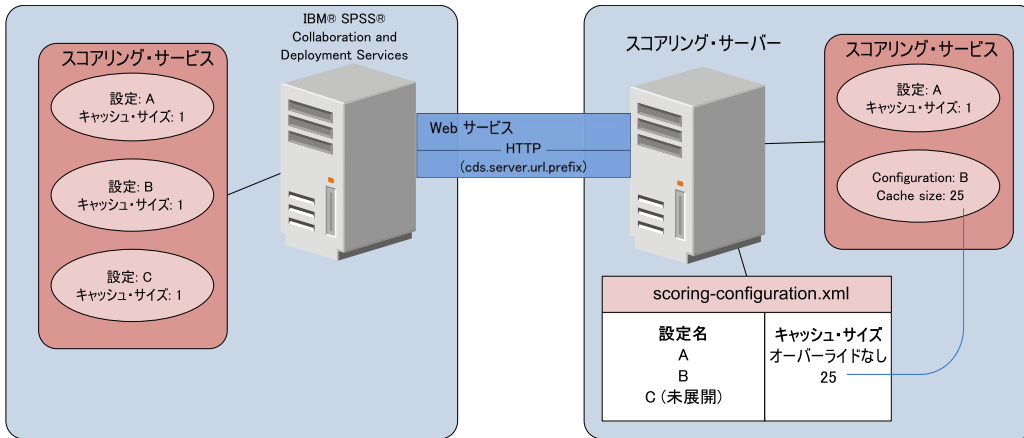


図 4. スコアリング・サーバー環境の構成

この図は、`scoring-configuration.xml` ファイルがスコアリング・サーバーの設定をどのように決定するかを表しています。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーには、スコアリング設定 A、B、および C が含まれており、それぞれのキャッシュ・サイズは 1 です。スコアリング・サーバーにある `scoring-configuration.xml` ファイルは 3 つの設定名 A、B、および C を指定していますが、C は展開されていないことを示しています。B のキャッシュ・サイズの構成設定は 25 に定義されています。その結果、スコアリング・サーバーは、スコアリング設定 A と B から構成され、A のキャッシュ・サイズは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーで定義されている 1 になり、B のキャッシュ・サイズは、スコアリング・サーバーで定義されている 25 になります。

手順

1. テキスト・エディターで、`<server-home>/configuration/scoring-configuration.xml` ファイルを開きます。
2. `cds.server.url.prefix` プロパティの値として、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の URL 接頭部を指定します。
3. `selectByName` 要素と `selectByPattern` 要素を定義して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository からのスコアリング設定がスコアリング・サーバーに展開されるように指定します。
 - `selectByName` 要素は、その名前によってスコアリング設定を指定します。
 - `selectByPattern` 要素は、スコアリング設定名と比較されるパターンを指定します。このパターンと一致する名前を持つすべてのスコアリング設定が、スコアリング・サーバーに展開されます。
4. `scoring-configuration.xml` に対する変更を保存して、ファイルを閉じます。スコアリング・サーバーがファイルを検索する方法と、その他の重要な情報について詳しくは、27 ページの『スコアリング・サーバーが `scoring-configuration.xml` を見つける方法』を参照してください。

次のタスク

スコアリング構成設定を定義したら、スコアリング・サーバーを始動して、スコアリング要求を送信します。

スコアリング・サーバーが **scoring-configuration.xml** を見つける方法

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server は、`scoring-configuration.xml` ファイルを以下の場所で以下の順序で検索します。

- サーバーは、このファイル (ディレクトリーではなく) への絶対パスを値として持つ `com.spss.scoring.configuration.file` という名前のシステム・プロパティーを検索します。デフォルト動作をオーバーライドする場合は、ユーザーがこの絶対パスを設定する必要があります。この値を定義する際は、使用するオペレーティング・システムに応じて適切なパス分離文字 (例えば / や ¥) を指定する必要があります。

また、ご使用のアプリケーション・サーバーで可能な Java システム・プロパティーの定義方法に応じて、ファイル・パスでのスペースの使用に注意し、必要に応じて引用符を使用してください。例えば、Windows では、バッチ・ファイルまたはコマンド・プロンプトを使用して Java システム・プロパティーを指定する場合に、以下のように引用符が必要です。

```
set JAVA_OPTIONS=%JAVA_OPTIONS% -Dcom.spss.scoring.configuration.file="C:¥Program Files¥IBM¥SPSS¥Deployment¥8.0¥ScoringServer¥configuration¥scoring-configuration.xml"
```

- サーバーは、アーカイブのルートにあるスコアリング・サーバー EAR ファイル内で構成ファイルを検索します。デフォルト動作をオーバーライドする場合は、ユーザーが `scoringserver60.ear` ファイル内に構成ファイルを配置する必要があります。新規アダプターを追加する場合にこのメカニズムを使用するには、`scoring-configuration.xml` のコピーで EAR を更新する必要があります。これにより最終的に新規 EAR ファイルが作成されます。このオプションは、クラスター化環境でスコアリング・サーバーを構成する際に便利です。自動的にクラスター内のすべてのノードで構成ファイルが使用可能になるからです。
- サーバーは、サーバーがインストールされた場所でこのファイルを検索します。これはデフォルトの動作であり、ユーザーが行う必要があるのは、その場所でこのファイルを更新することのみです。スコアリング・サーバーは `com.spss.scoring.server.home` というシステム・プロパティーを使用してこの場所を検索します。このプロパティーは常に定義されていなければならない、スコアリング・サーバーの home ディレクトリーのパスを提供します。このシステム・プロパティーはパス `/configuration/scoring-configuration.xml` と結合されます。例えば、以下のようにします。

```
<com.spss.scoring.server.home system property value>/configuration/scoring-configuration.xml
```

注: 大抵の場合はこの 3 つ目のオプションを使用することをお勧めします。最初の 2 つのオプションは、ファイルの場所に関してより詳細な制御が求められる場合に適しています。

Liberty の特殊なケース

WebSphere 上の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services を Liberty スコアリング・サーバーに展開する場合、スコアリング・サーバーが構成情報を検索する動作は少々異なります。Liberty では、`server.xml` ファイルが、アプリケーション・サーバーとスコアリング構成を構成するための主要なメカニズムです。このファイルは `<scoring home>¥wlp¥usr¥servers¥cdsScoringServer¥server.xml` にあり、`<scoring home>¥scoring¥scoring.server.xml` から別の XML ファイルをインポートすることに注意してください。

`scoring.server.xml` ファイル内には文字データを含む XML セクションがあります。この文字データは `serviceConfiguration XML` の内容です。この XML は、`<scoring home>¥scoring¥configuration¥scoring-configuration.xml` にある構成ファイルにとってもよく似ています。切り詰めた例を以下に示します (下線部分に注目してください)。

```

<com.spss.scoring.scoringConfiguration>
  <scoringConfigurationXml>
    <![CDATA[
      <serviceConfiguration xmlns="http://xml.spss.com/scoring/configuration">
        ...
      </serviceConfiguration>
    ]]>
  </scoringConfigurationXml>
</com.spss.scoring.scoringConfiguration>

```

したがって、Liberty の場合は、<com.spss.scoring.scoringConfiguration> XML が存在する限り、スコアリング・サーバーは常にそれを使用します。上で説明した他の場所を検索することはありません。<com.spss.scoring.scoringConfiguration> が存在しない場合は、前述の検索順序が使用されます。

サーバー・ログには、スコアリング構成の場所に関する情報が含まれます。例えば、Liberty に展開されたスコアリング・サーバーの場合、ログには以下のような記述が含まれます。

```

05:21:38,487 INFO [Configuration] JNDI name
'osgi:service/com.spss.scoring.local.IScoringOSGIServiceComponent' will be used to
retrieve Scoring configuration xml.
05:21:38,488 INFO [Configuration] An input stream was created for Scoring Configuration
XML at location osgi:service/com.spss.scoring.local.IScoringOSGIServiceComponent
05:21:38,488 INFO [Configuration] Attempting to validate scoring-configuration xml.
05:21:38,510 INFO [Configuration] Attempting to load Scoring Configuration XML file
05:21:38,510 INFO [Configuration] An input stream was created for Scoring Configuration
XML at location osgi:service/com.spss.scoring.local.IScoringOSGIServiceComponent

```

スコアリング・サーバーが JBoss に展開された場合の例を以下に示します。

```

2015-11-04 17:19:58,306 INFO [com.spss.configsys.Configuration] Configuration
(ServerService Thread Pool -- 62) System property com.spss.scoring.server.home will be
used to find scoring-configuration.xml file at path C:/your_install_dir/S $%configuration%
scoring-configuration.xml
2015-11-04 17:19:58,478 INFO [com.spss.configsys.Configuration] Configuration
(ServerService Thread Pool -- 62) An input stream was created for Scoring Configuration
XML at location C:/your_install_dir/S $%configuration%scoring-configuration.xml
2015-11-04 17:19:58,650 INFO [com.spss.configsys.Configuration] Configuration
(ServerService Thread Pool -- 62) Attempting to validate scoring-configuration xml.
2015-11-04 17:19:58,759 INFO [com.spss.configsys.Configuration] Configuration
(ServerService Thread Pool -- 62) Attempting to load Scoring Configuration XML file
2015-11-04 17:19:58,790 INFO [com.spss.configsys.Configuration] Configuration
(ServerService Thread Pool -- 62) An input stream was created for Scoring Configuration
XML at location C:/your_install_dir/S $%configuration%scoring-configuration.xml

```

いずれの例でもログには、スコアリング・サーバーが構成情報の検索を試行した場所が示されています。スコアリング構成情報の取得中にエラーが発生した場合、ログに FATAL メッセージが表示されます。スコアリング・サーバーはこの情報なしには正常に機能できないためです。スコアリング・サーバーのアクティビティについてさらに詳細な情報が必要な場合は、デバッグ・ロギングをオンにすることもできます (この場合はログのサイズが大きくなるため、com.spss.configsys.Configuration または Configuration を検索することをお勧めします)。

第 8 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールすると、アプリケーション・サーバーに展開する必要のある EAR ファイルが作成されます。

始める前に

- IBM Installation Manager を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールします。
- スコアリング構成設定を指定します。 25 ページの『第 7 章 スコアリング構成設定の指定』を参照してください。

手順

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をアプリケーション・サーバーに展開します。 手順はアプリケーション・サーバーによって異なります。
 - 『WebSphere の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開』
 - 31 ページの『JBoss の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開』
 - 32 ページの『WebLogic の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開』
2. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server を始動します。

WebSphere の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールすると、アプリケーション・サーバーに展開する必要のある EAR ファイルが作成されます。WebSphere の場合、Jython スクリプトを使用して EAR ファイルを展開します。

始める前に

- IBM Installation Manager を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールします。
- スコアリング構成設定を指定します。 25 ページの『第 7 章 スコアリング構成設定の指定』を参照してください。

このタスクについて

スコアリング・サーバーを展開するには、WebSphere wsadmin ツールを使用して Jython 展開スクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、現行作業ディレクトリーが、スクリプト・ファイルを含むディレクトリーに設定されていると想定します。Jython スクリプトを開始するときに、スクリプト・ファイルを含むディレクトリーに現行作業ディレクトリーを変更し、スクリプト・プロセッサに対して絶対パスを指定します。

wsadmin ツール用に、以下の 2 種類のコマンド・ライン・パラメーターがあります。

- wsadmin に渡されるパラメーター
- Jython スクリプトに渡されるパラメーター

wsadmin パラメーターは、WebSphere のトポロジが管理対象であるか非管理対象であるかによって異なります。非管理対象トポロジの場合、スクリプトの実行時に WebSphere サーバーを停止する必要があります。WebSphere コンソールで何らかの変更を手動で行う必要がある場合、サーバーを起動し、処理を実行して、サーバーをシャットダウンしてから処理を続けます。コマンドは、スコアリング・サーバーがインストールされる WebSphere プロファイルから実行する必要があります。-connType none オプションを使用する必要があります。以下に、このコマンドの例を示します。

```
<PROFILE_HOME>/bin/wsadmin.(bat/sh) -lang jython -connType none
-f <PYTHON_SCRIPT_FILE_NAME> [script parameters]
```

管理対象トポロジの場合、WebSphere Deployment Manager および関連するノード・マネージャーは実行している必要がありますが、サーバーはすべて停止している必要があります。コマンドは、WebSphere Deployment Manager (DMGR) を実行している WebSphere プロファイルから実行する必要があります。

WebSphere プロファイル用に管理セキュリティが有効になっている場合、以下のように管理ユーザー ID とパスワード・パラメーターも wsadmin に渡す必要があります。

```
-user <USER> -password <PASSWORD>
```

スコアリング・サーバーがクラスター化されていないサーバーに展開される場合、以下のようにノードとサーバーのパラメーターを Jython スクリプトに渡す必要があります。

```
-node <NODE> -server <SERVER>
```

スコアリング・サーバーがクラスター化されたサーバーに展開される場合、以下のようにクラスター・パラメーターを Jython スクリプトに渡す必要があります。

```
-cluster <CLUSTER_NAME>
```

手順

1. 異なるセルのトポロジを使用している場合、WebSphere wsadmin ツールを使用して <server-home>/toDeploy/current/WebSphere/bin/CrtScoringJMS.py ファイルを実行します。例えば、以下のようにします。

```
<PROFILE_HOME>%bin%wsadmin.bat -lang jython -connType NONE -f CrtScoringJMS.py
-node DG1-DEV-CLST-2BNode01 -server server1 -busName SCORING_BUS
```

重要: まだバスを定義していない場合は、CrtScoringJMS.py を実行する前に最初に定義する必要があります。バスの作成と構成については、7 ページの『第 3 章 異なるセルにあるスコアリング・サーバー用の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の構成』を参照してください。

同じセルのトポロジを使用している場合、次のステップに進みます。

2. WebSphere wsadmin ツールを使用して、<server-home>/toDeploy/current/WebSphere/bin/CrtScoringResources.py ファイルを実行します。例えば、以下のようにします。

```
<PROFILE_HOME>%bin%wsadmin.bat -lang jython -connType NONE -f CrtScoringResources.py
-node DG1-DEV-CLST-2BNode01 -server server1
```

3. WebSphere wsadmin ツールを使用し、<server-home>/toDeploy/current/WebSphere/bin/DeployScoring.py ファイルを実行してスコアリング・サーバーの EAR ファイルを展開します。例えば、以下のようにします。

```
<PROFILE_HOME>%bin%wsadmin.bat -lang jython -connType NONE -f DeployScoring.py
-node DG1-DEV-CLST-2BNode01 -server server1
```

4. スコアリング・サーバーを始動します。
5. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーにアクセスするための JAAS 資格情報を作成します。JAAS 資格情報には、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の管理者資格情報を使用します。資格情報を作成するためのパスは Enterprise Applications > IBM_SPSS_Remote_Scoring_Server_8.0 > Manage Modules > security-jca.rar > IBM_SPSS_Remote_Scoring_Server_8.0.IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Security JCA > J2C connection factories > IBM_SPSS_SECURITY-JCA > JAAS - J2C authentication data > New... であることに注意してください。
6. 新しい認証別名を使用するように、J2C 接続ファクトリーを構成します。JAAS セキュリティー資格情報を設定するためのパスは Enterprise Applications > IBM_SPSS_Remote_Scoring_Server_8.0 > Manage Modules > security-jca.rar > IBM_SPSS_Remote_Scoring_Server_8.0.IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Security JCA > J2C connection factories > IBM_SPSS_SECURITY-JCA. であることに注意してください。
 - a. IBM_SPSS_SECURITY-JCA J2C 接続ファクトリーについては、前のステップで作成した資格情報としてコンポーネント管理認証別名の値を定義します。
 - b. 認証設定には、BASIC_PASSWORD を指定します。
7. 同じセルのトポロジーの場合、スコアリング・サーバーを始動します。異なるセルのトポロジーの場合、スコアリング・サーバーを再始動します。

タスクの結果

スコアリング・サーバーでスコアリング要求を処理するために、構成ファイルに指定されたスコアリング設定を使用できるようになります。

JBoss の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server を JBoss アプリケーション・サーバーに展開するには、IBM Installation Manager によってインストールされた複数のファイルをアプリケーション・サーバー・インスタンスにコピーします。

始める前に

- IBM Installation Manager を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールします。
- スコアリング構成設定を指定します。25 ページの『第 7 章 スコアリング構成設定の指定』を参照してください。

手順

1. JBoss サーバー設定ファイルを更新して、JMS ブリッジ設定の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository URL を含めます。
 - a. ファイル `<SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%resources%cds_scoring_server.xml` を編集し、文字列 **REVIEW:** を検索します。
 - b. `java.naming.provider.url` フィールドを、**CDS_Bridge_MessageBusTopicUpdate**、**CDS_Bridge_AuditQ**、および **CDS_Bridge_LogQ** ブリッジのリポジトリ・サーバーのホスト名または IP アドレスで更新します。
2. サーバー設定ファイルに含まれている、スコアリング・サーバーが IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository に接続するために使用する資格情報を更新します。

- a. JBoss ディレクトリー内で「picketbox」を検索し、その場所をメモしてから、JBoss ユーティリティーを使用してリポジトリー・サーバー・パスワードをエンコードします。例えば、以下のようになります。

```
CD <JBOSS_HOME>
java -cp
%JBOSS_HOME%\modules\system\layers\base\org\picketbox\main\picketbox-4.0.17.Final-redhat-1.jar;
%JBOSS_HOME%\modules\system\layers\base\org\jboss\logging\main\jboss-logging-3.1.2.GA-redhat-1.jar
org.picketbox.datasource.security.SecureIdentityLoginModule <password>
```

- b. ファイル <SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%resources%cds_scoring_server.xml を編集し、文字列 **REVIEW:** を検索します。
 - c. security-domain name="CDSScoringServer" セクションの **userName** オプションおよび **password** オプションに、リポジトリー・サーバーのユーザー ID と JBoss 暗号化パスワードを指定して更新します。
 - d. ファイルの変更内容を保存します。
3. ファイル <SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%resources%cds_scoring_server.xml を <JBOSS_HOME>%standalone%configuration ディレクトリーにコピーします。
 4. ファイル <SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%resources%CDS_SS_JVMSystem.properties を <JBOSS_HOME>%bin ディレクトリーにコピーします。
 5. ファイル <SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%deployables%scoringserver80.ear を <JBOSS_HOME>%standalone%deployments ディレクトリーにコピーします。
 6. ファイル <SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%bin%startScoringServer.bat を編集して、<JBOSS_HOME> の場所を指定します。
 7. スコアリング・サーバーを始動します。
 - a. <JAVA_HOME> を設定します。
 - b. 以下のコマンドを実行します。

```
<SS_HOME>%toDeploy%current%JBoss%bin%startScoringServer.bat
```

タスクの結果

スコアリング・サーバーでスコアリング要求を処理するために、構成ファイルに指定されたスコアリング設定を使用できるようになります。

WebLogic の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server の展開

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールすると、アプリケーション・サーバーに展開する必要がある EAR ファイルが作成されます。WebLogic の場合、Jython スクリプトを使用して EAR ファイルを展開します。

始める前に

- IBM Installation Manager を使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をインストールします。
- スコアリング構成設定を指定します。25 ページの『第 7 章 スコアリング構成設定の指定』を参照してください。

手順

1. スコアリング・サーバーに対してスコアリング設定ファイルが使用可能になっていない場合は、使用可能にします。使用可能な方法について詳しくは、27 ページの『スコアリング・サーバーが scoring-configuration.xml を見つける方法』を参照してください。

2. コマンド・ラインまたはバッチ・ファイルから以下のコマンドを実行し、スタンドアロン「管理サーバー」(単一サーバー・ドメイン) をセットアップして始動します。

```
set JAVA_HOME=<path to Java home>
set DOMAIN_HOME=<path to scoring server domain home>
call <SS_HOME>%toDeploy%current%WebLogic%bin%setScoringEnv.bat
call <DOMAIN_HOME>%startWebLogic.cmd
```

例えば、以下のようにします。

```
set JAVA_HOME=c:%Program Files%Oracle%jdk1.8.0_60
set DOMAIN_HOME=c:%Oracle%Middleware%Oracle_Home%user_projects%domains%unmanaged_domain
call "C:%Program Files%IBM%SPSS%Deployment%8.0%ScoringServer%toDeploy%current%WebLogic%bin%setScoringEnv.bat"
call %DOMAIN_HOME%startWebLogic.cmd
```

3. コマンド・ラインまたはバッチ・ファイルから以下のコマンドを実行し、「管理サーバー」と、それに続き「管理対象サーバー」をセットアップして始動します。

- a. 最初に以下の手順で「管理サーバー」を設定して始動します。

```
set JAVA_HOME=<path to Java home>
set DOMAIN_HOME=<path to scoring server domain home>
call <SS_HOME>%toDeploy%current%WebLogic%bin%setScoringEnv.bat
call <DOMAIN_HOME>%startWebLogic.cmd
```

例えば、以下のようにします。

```
set JAVA_HOME=c:%Program Files%Oracle%jdk1.8.0_60
set DOMAIN_HOME=c:%Oracle%Middleware%Oracle_Home%user_projects%domains%managed_domain
call "C:%Program Files%IBM%SPSS%Deployment%8.0%ScoringServer%toDeploy%current%WebLogic%bin%setScoringEnv.bat"
call %DOMAIN_HOME%startWebLogic.cmd
```

- b. 次に「管理対象サーバー」を設定して始動します。

```
set JAVA_HOME=<path to Java home>
set DOMAIN_HOME=<path to scoring server domain home>
set SERVER_NAME=<weblogic server name>
set ADMIN_URL=<URL of the Weblogic Administration Server for scoring domain>
call <DOMAIN_HOME>%bin%startManagedWebLogic.cmd
```

例えば、以下のようにします。

```
set JAVA_HOME=c:%Program Files%Oracle%jdk1.8.0_60
set DOMAIN_HOME=c:%Oracle%Middleware%Oracle_Home%user_projects%domains%managed_domain
call "C:%Program Files%IBM%SPSS%Deployment%8.0%ScoringServer%toDeploy%current%WebLogic%bin%setScoringEnv.bat"
set SERVER_NAME=ManagedServer_1
set ADMIN_URL=http://localhost:7003
call %DOMAIN_HOME%bin%startManagedWebLogic.cmd
```

重要: 次のステップで CrtScoringJMS.py および DeployScoring.py を実行する前に、サーバーが実行されていることを確認してください。

4. WebLogic Scripting Tool (wlst) を使用して、ファイル <server-home>%toDeploy%current%WebLogic%bin%**CrtScoringJMS.py** を実行します。CrtScoringJMS.py スクリプトは、スコアリング・サーバーで JMS を使用するために必要な WebLogic 設定を作成します。以下のパラメーターの値を指定します。

-adminURL

スコアリング・サーバー用の、WebLogic 管理サーバーの接続 URL。必須。例:
t3://host:port

-user スコアリング・サーバーを実行する WebLogic 管理サーバーに接続するためのユーザー名。必須。

-password
スコアリング・サーバーを実行する WebLogic 管理サーバーに接続するためのパスワード。必須。

-targetServer
スコアリング・サーバーの展開先である WebLogic サーバー・インスタンスの名前。このパラメーターまたは **-targetCluster** のいずれかが必須です。

-targetCluster
展開先の WebLogic クラスターの名前。このパラメーターまたは **-targetServer** のいずれかが必須です。

-cdsURL
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバーのブリッジ宛先 URL。必須。例: t3://host1:port

-scoringURL
スコアリングのブリッジ宛先 URL。必須。例: t3://host1:port

-wlHome
WebLogic のインストール場所。これは `server/lib` ディレクトリーの親ディレクトリーでなければなりません。必須。例: /bea/wlserver_10.3

-nodeSuffix
固有名を必要とするリソースに付加されるオプションの接尾辞。

-jmsTarget
クラスター内の JMS サーバーのオプションのターゲット。

-cdsUser
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services JMS ブリッジ宛先のオプションのユーザー名。

-cdsPassword
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services JMS ブリッジ宛先のオプションのパスワード。

-scoringUser
スコアリング JMS ブリッジ宛先のオプションのユーザー名。

-scoringPassword
スコアリング JMS ブリッジ宛先のオプションのパスワード。

使用例:

```
wlst CrtScoringJMS.py -adminURL t3://localhost:7001 -user weblogic -password Weblogic1  
-targetServer scoringServer -cdsURL t3://host:port -scoringURL t3://host:port -wlHome /bea/wlserver_10.3
```

5. WebLogic Scripting Tool (wlst) を使用して、ファイル `<server-home>%toDeploy%current%WebLogic%bin%DeployScoring.py` を実行します。DeployScoring.py は、スコアリング・サーバーの EAR ファイルを WebLogic サーバーに展開します。以下のパラメーターの値を指定します。

-adminURL
スコアリング・サーバー用の、WebLogic 管理サーバーの接続 URL。必須。例:
t3://host:port

-user スコアリング・サーバーを実行する WebLogic 管理サーバーに接続するためのユーザー名。必須。

-password

スコアリング・サーバーを実行する WebLogic 管理サーバーに接続するためのパスワード。必須。

-targetServer

スコアリング・サーバーの展開先である WebLogic サーバー・インスタンスの名前。このパラメーターまたは **-targetCluster** のいずれかが必須です。

-targetCluster

展開先の WebLogic サーバー・クラスターの名前。このパラメーターまたは **-targetServer** のいずれかが必須です。

使用例:

```
wlst DeployScoring.py -adminURL t3://localhost:7001 -user weblogic -password Weblogic1 -targetServer scoringServer
```

「管理サーバー」(つまり、単一サーバー・ドメイン) への展開の例。この例では、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository およびスコアリング・サーバーが同一マシンで実行されており(したがって localhost を使用)、リポジトリがポート 7001 で実行され、スコアリング・サーバーがポート 7002 で実行されていると想定します。ご使用の環境に合わせてこの例を調整してください。

```
cd C:\Program Files\IBM\SPSS\Deployment\8.0\ScoringServer\toDeploy\current\WebLogic\bin
C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\oracle_common\bin\wlst.cmd CrtScoringJMS.py -adminURL
t3://localhost:7002 -user weblogic -password weblogic1 -targetServer AdminServer -cdsURL
t3://localhost:7001 -scoringURL t3://localhost:7002 -wlHome C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\wlserver
C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\oracle_common\bin\wlst.cmd DeployScoring.py -adminURL
t3://localhost:7002 -user weblogic -password weblogic1 -targetServer AdminServer
```

「管理対象サーバー」への展開の例。この例では、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository およびスコアリング・サーバーが同一マシンで実行されており(したがって localhost を使用)、管理サーバーがポート 7003 で実行され、リポジトリがポート 7001 で実行され、スコアリング・サーバーがポート 7004 で実行されていると想定します。ご使用の環境に合わせてこの例を調整してください。

```
cd C:\Program Files\IBM\SPSS\Deployment\8.0\ScoringServer\toDeploy\current\WebLogic\bin
C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\oracle_common\bin\wlst.cmd CrtScoringJMS.py -adminURL
t3://localhost:7003 -user weblogic -password weblogic1 -targetServer ManagedServer_1 -cdsURL
t3://localhost:7001 -scoringURL t3://localhost:7004 -wlHome C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\wlserver
C:\Oracle\Middleware\Oracle_Home\oracle_common\bin\wlst.cmd DeployScoring.py -adminURL
t3://localhost:7003 -user weblogic -password weblogic1 -targetServer ManagedServer_1
```

6. security-jca.jar モジュールにスコアリング・サーバーの J2C セキュリティー別名を設定して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository サーバー資格情報を指定します。
 - a. WebLogic 管理コンソールの「Deployments」セクションで、スコアリング・サーバー・アプリケーションを展開します。
 - b. 「security-jca」 > 「セキュリティー」 > 「アウトバウンド資格情報のマッピング (Outbound Credential Mappings)」を選択します。
 - c. 資格情報のマッピングを作成します。マッピング・プロパティーには、以下の値を指定します。
 - アウトバウンド接続プール = ResourceSecurityConnectionFactory
 - WebLogic サーバー・ユーザー = 認証されていない WLS ユーザー
 - EIS ユーザー名 = IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー名

- EIS パスワード = 指定したユーザーの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services パスワード
7. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server を始動します。次に、スコアリング・サーバーに関連付けられている WebLogic サーバーを再始動します (これにより、スコアリング・サーバーが始動時に設定変更を取得し、構成をロードします)。

タスクの結果

スコアリング・サーバーでスコアリング要求を処理するために、構成ファイルに指定されたスコアリング設定を使用できるようになります。

第 9 章 IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のアンインストール

ウィザード・モードまたはコンソール・モードでアンインストールできます。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のインストールに使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

重要: IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server プログラム・ディレクトリーの一部のファイル (プログラム・データなど) は、IBM Installation Manager では削除できません。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server のすべてのファイルをシステムから完全に削除するには、IBM Installation Manager でアンインストールした後にプログラム・ディレクトリーを手動で削除する必要があります。

ウィザード・モードを使用したアンインストール

IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をアンインストールすることができます。

始める前に

アンインストールするパッケージのインストール時に使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

手順

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. IBMIM を使用して、ウィザード・モードで Installation Manager を開始します。

IBMIM のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムとインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。

3. Installation Manager で、「アンインストール」をクリックします。
4. 「アンインストール」ウィザードで、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server パッケージを選択します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「要約」ページで、選択内容を確認します。選択項目を変更するには、「戻る」をクリックします。選択内容がそのままであれば、「アンインストール」をクリックします。

Windows では、Installation Manager によって実行中のプロセスが検査されます。プロセスがアンインストール処理を妨げている場合、そのプロセスのリストが「ブロッキング・プロセス」セクションに表示されます。アンインストール処理を続行する前に、これらのプロセスを停止する必要があります。

「ブロッキング・プロセスをすべて停止」をクリックします。停止しなければならないプロセスが存在

しない場合、このリストは表示されません。実行中のプロセスは、Installation Manager がアクセスまたは変更しなければならないファイルをロックしています。

7. アンインストール・プロセスが完了すると、「完了」ページが開き、アンインストール・プロセスの終了が確認されます。

コンソール・モードを使用したアンインストール

IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をアンインストールすることができます。

始める前に

パッケージのインストールに使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

このタスクについて

選択されているオプションは、大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。**Enter** キーを押してデフォルトの項目を選択することも、別のコマンドを選択することもできます。例えば [N] は、デフォルトの選択が「N」（「次へ」コマンド）であることを示します。

手順

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。

imcl のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムとインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) によって異なります。詳しくは、11 ページの『第 5 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
3. 「5」（「5: アンインストール - インストール済みソフトウェア・パッケージを削除します」）を入力します。
4. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Scoring Server パッケージ・グループを選択するには、パッケージ・グループの横にある番号を入力します。
5. 「N」（「N: 次へ」）を入力して続行します。
6. パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。

オプション: すべてのパッケージをアンインストール対象として選択するには、「A」（「A: パッケージをすべて選択します」）を選択します。「A」（「A: パッケージの選択をすべて解除します」）オプションは、アンインストール対象としてすべてのパッケージが選択されている場合に表示されます。

7. アンインストールを行う前に「要約」パネルで選択内容を確認します。「U」（「U: アンインストール」）を入力します。
8. アンインストール・プロセスが完了したら、「F」（「F: 完了」）を入力します。

第 10 章 推奨されない機能

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services の以前のリリースからマイグレーションする場合は、前回のバージョン以降に非推奨となったさまざまなフィーチャーを確認する必要があります。

ある機能が非推奨になった場合、IBM Corp. は、製品の今後のリリースでその機能を除去する可能性があります。将来は、推奨されるマイグレーション・アクションにリストされている戦略的機能に投資の重点が置かれます。通常、フィーチャーは、同等の代替機能が提供されない限り非推奨とはなりません。

以下の表に、推奨されない機能を示します。この表には、可能であれば、推奨されるマイグレーション・アクションも示されます。

表 5. 以前のバージョンの非推奨になった機能

非推奨	推奨されるマイグレーション・アクション
セキュリティー・プロバイダー: 拡張グループおよび許可ユーザーをサポートする、ローカル・オーバーライドを使用する Active Directory	標準の Active Directory セキュリティー・プロバイダーに必要なグループを追加して使用してください
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View	分析データ・ビュー機能を使用
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver	分析データ・ビュー機能を使用
シナリオ・ファイル	シナリオ・ファイル (.scn) はサポートされなくなりました。エンタープライズ・ビューのソース・ノードは Deployment Manager で変更できません。古いシナリオ・ファイルは、IBM SPSS Modeler クライアントで変更し、ストリーム・ファイルとして再度保存することができます。また、シナリオ・ファイルを使用したスコアリング構成は、削除し、ストリーム・ファイルに基づいて再作成する必要があります。
IBM SPSS Deployment Manager の Web インストール	スタンドアロン・インストーラーを使用
BIRT Report Designer for IBM SPSS	なし
BIRT Report Designer for IBM SPSS ビューアー	なし
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal を直接使用するか、または Web サービス API を使用してください
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Web Part	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal を直接使用するか、または Web サービス API を使用してください
スコアリング・サービス V1 API	スコアリング・サービス V2 API
スケジューリング・サーバー・サービス	なし
レポート・サービス	なし
認証サービスの login 操作	認証サービスの doLogin 操作
検索サービスの search 操作	検索サービスの search2.5 操作

表 5. 以前のバージョンの非推奨になった機能 (続き)

非推奨	推奨されるマイグレーション・アクション
SPSS AXIS/Castor Web サービス・クライアント jar	Java ランタイム環境、統合開発環境、または Eclipse Web Tools Platform (WTP) に付属のツールを使用してください

非推奨機能の更新情報については、IBM Knowledge Center を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール
インストール・ウィザードの使用 37
更新 37
コンソール・モードの使用 37
製品 37
パッケージ 37
 コンソール・モード 38
IBM SPSS Collaboration and
Deployment Services Scoring
Server 37, 38
インストール 3, 4
 インストール・ウィザードの使用 17
 コンソール・モードの使用 17, 20
 サイレント・モードの使用 17
IBM SPSS Collaboration and
Deployment Services Scoring
Server 17
インストールの前提条件 3
ウィザード・モード 11
 アンインストール 37
 インストール 17

[カ行]

開始
 IBM Installation Manager 11
更新
 アンインストール 37
 コンソール・モード 38
更新の検索 13
 コンソール・モード 13
異なるセルのトポロジー 7
コンソール・モード 11
 アンインストール 37, 38
 インストール 17, 20
 パスポート・アドバンテージ 15
 リポジトリ 13

[サ行]

サイレント・モード 11
 インストール 17, 23
資格情報 13

資格情報 (続き)
 パスポート・アドバンテージ 14
システム要件 3
スコアリング設定 25, 27
製品
 アンインストール 37
 コンソール・モード 38
設定
 パスポート・アドバンテージ 14, 15
 リポジトリ 13
前提条件 3

[タ行]

展開 29
JBoss 31
WebLogic 32
WebSphere 29

[ナ行]

認証済みリポジトリ 13

[ハ行]

バス接続 7
パッケージ
 アンインストール 37
 コンソール・モード 38
コンソール・モードでのインストール
20

[ラ行]

リポジトリ
 接続のテスト 13
 設定の指定 13
 リポジトリの場所の削除 13
 リポジトリの場所の追加 13
 リポジトリの場所の編集 13

IBM Installation Manager 3, 11
IBM SPSS Collaboration and
Deployment Services Scoring Server
 アンインストール 37, 38
 インストール 17
 システム要件 3

IBM SPSS Collaboration and
Deployment Services - Essentials for
Python 2
IBM パスポート・アドバンテージ
 設定の指定 14
Installation Manager 3, 11

J

JBoss
 スコアリングの展開 31

W

WebLogic
 スコアリングの展開 32
WebSphere
 スコアリングの展開 29



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21